

付着生物ラーバ情報

1 ラーバの出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

平成29年9月下旬に、東湾では川内沖で0.8個/m³見られました(図2)。

(2) オベリア類(通称:クサ)

クラゲは見られていません。

(3) キヌマトイガイ

ラーバは見られていません。

(4) アミクサ(通称:クサ)

小枝は見られていません。

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H29.10.3	0.0	0.0	0.0
川内沖	H29.10.3	0.0	0.8	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

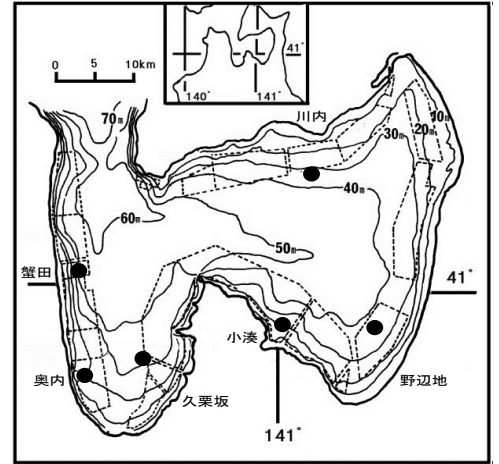


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵します。現在、陸奥湾内の中層の水温は19℃台になりましたので、**これからラーバの出現と付着が増加**していくものと思われまます。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**することが分かっていますので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

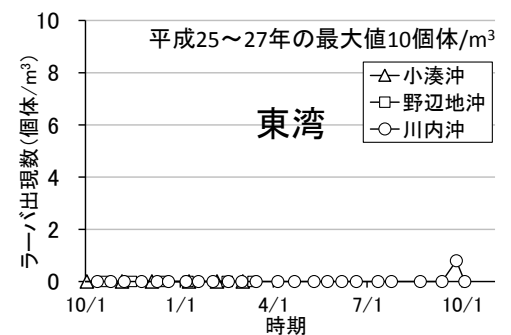
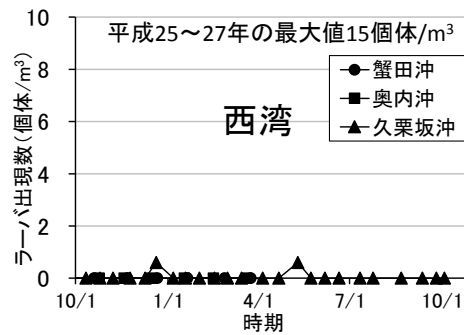


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成29年10月)

オベリア類、キヌマトイガイ、アミクサの付着は年明けになるものと思われまます。

平成25年度~28年度と同じ湾内6点(図1)で調査し、来年の3月まで月2回ラーバ情報を発行しますので、養殖作業の参考にしてください。次回は10月下旬に発行する予定です。

3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月~翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ない**ことが分かりました(図3)。

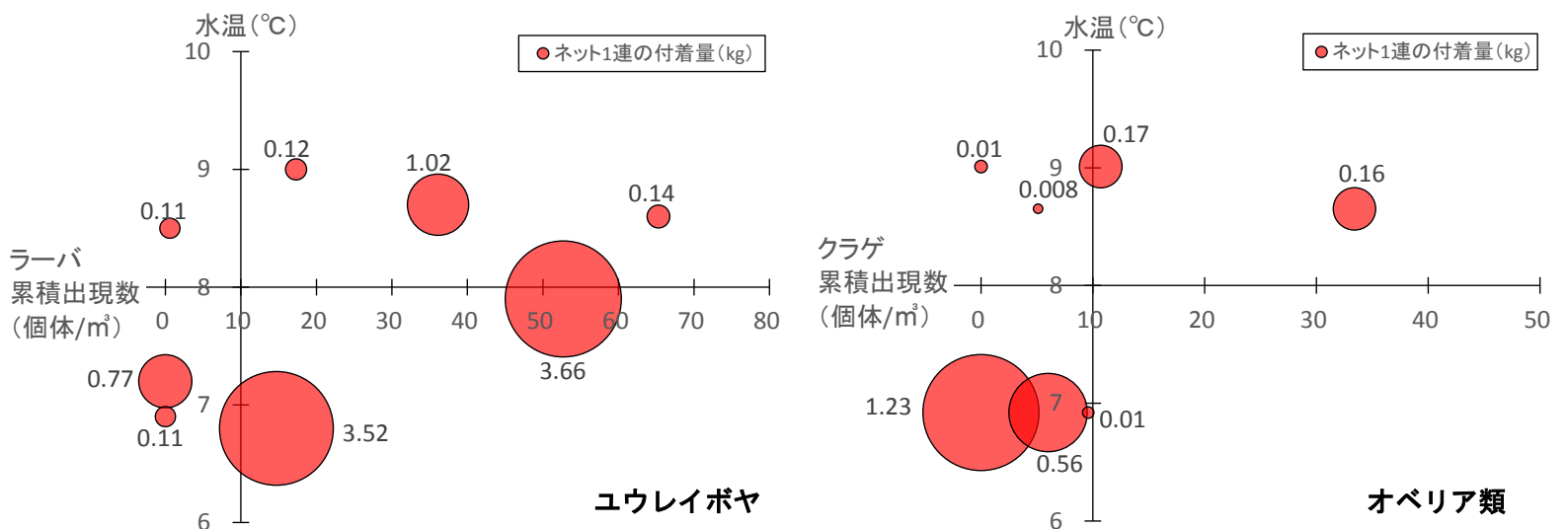


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(O印の中心はプロット位置、面積は付着量)

